

# 事業報告

## 令和3年度 教育事業

### 教員免許状更新講習

令和3年9月4日(土)～5日(日)  
 【対象】小・中学校教諭  
 【場所】国立信州高遠青少年自然の家

#### ～趣旨～

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な知識や技術を身につける。また、学習指導要領における体験活動の位置付けについて理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

#### ～主催～

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

#### ～活動日程～

8:30		9:00		10:30		10:45		12:45		13:30		15:30		15:40		18:40		18:50		20:50		22:00	
1	受付	開講式	講義 「教育の現状と課題」 (1.5h)	実習 学級で活かせる「体験活動を使った人間関係づくり①」(2h)	昼食	講義 学級で活かせる「体験活動を使った人間関係づくり②」(2h)		実習 学級作りに活かす体験活動「野外炊飯」(3h)		実習 体験活動「キャンプファイヤー」の指導法(2h)	入浴	就寝											
2	朝食	講義 「体験活動の教育的意義」(2h)	実習 学級作りに活かす自然体験活動「オリエンテーリング」(風食弁当を含む)(3.5h)		講義 「野外活動における安全管理」(1h)	閉講式	履修認定試験(1.5h)	解散															

#### ～参加者～

17名(男性8名、女性9名)(小学校教諭9名、中学校教諭8名)  
 (長野県17名)(宿泊15名、通い2名)

#### ～活動トピックス～

##### 講義Ⅰ 【教育の現状と課題】

講師：長野県教育委員会学びの支援課義務教育指導係教育主幹兼係長 臼井 学 氏  
 新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的・深い学び」について、また今の子供たちが抱えている課題や新しい学力観に立った授業の実践について理解を深めた。



##### 講義・実習Ⅰ 【学級で活かせる「体験活動を使った人間関係づくり」】

講師：信州大学教育学部 野外教育コース 瀧 直也 氏

はじめに人間関係を円滑にするためのアイスブレイクについて実習を行った。つぎにグループでの課題解決ゲームを体験することで、その効用について具体例をもとに学んだ。特に今回はコロナ対応も考慮した活動の進め方や用具の工夫についても説明があった。

##### 実習Ⅰ 【学級作りに活かす体験活動「野外炊飯」】

講師：信州大学教育学部 野外教育コース 瀧 直也 氏  
 国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

学級づくりに活かす野外炊飯として、班で食材を選び、話し合いによりメニューを決めるプログラムを実施した。ねらいの通り、互いのコミュニケーションが盛んになり、班の中の絆が深まっていった。少しの工夫で、よりねらいに即した効果的なプログラムになることを経験できた。





## 実習Ⅱ 【体験活動「キャンプファイヤー」の指導法】

講師：信州大学教育学部 野外教育コース 瀧 直也 氏  
国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

天候が悪く、野外炊飯棟に焚火台を置きキャンプファイヤーを行った。儀式的で型にはまったキャンプファイヤーをしなければいけないと考えがちだが、もう少し気楽にキャンプファイヤーに向き合ってもいいのではないかという話が印象的であった。

## 講義・実習Ⅱ 【体験活動の教育的意義】

講師：信州大学 理事・副学長 平野 吉直 氏

はじめに講義を聴き、後半に環境学習ゲームを体験した。講義で学んだことを実習で体験することができ、理解が深まった。「森のつながり探し」ゲームでは班の仲間と共通する特徴・性質を考えながら楽しく活動できた。



## 実習Ⅲ 【学級づくりに活かす自然体験活動「オリエンテーリング」】

講師：国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

当施設プログラムの施設内オリエンテーリングと独自プログラムであるフォトオリエンテーリングをグループにわかれて行った。天候にも恵まれたため、参加者は気持ちよい汗をかいていた。オリエンテーリング実施上の留意点を身をもって知ることができた。

## 講義Ⅱ 【野外活動における安全管理】

講師：国立信州高遠青少年自然の家 企画指導専門職

リスクマネジメントについて実地踏査の重要性を中心に学んだ。実地踏査をしていない指導者には写真を見せるなどの具体的な方法で情報を共有することの必要性を学んだ。また、KYT(危険予知トレーニング)で学んだことをもとに考えられるリスクを意識することにより、いざという時の対応にも余裕ができ、冷静な判断につながることも確認できた。

### ～参加者の声～

- ・3日分の単位が2日間で履修できることは大変ありがたいプログラムです。
- ・アイスブレイクやグループワークの活動に伴う参加者（生徒の立場）の気持ちがどう変容するか実習を通して体験的に理解でき、今後活かせる内容だった。先生の研究によるゲーム等、引き出しの多さに学べました。
- ・演習を通して、私自身のまわりの風景を見る目が変わったような気がしました。活動の目的をはっきりさせて仕組むことで、ねらいに沿った成果+αの得られるものが生まれることが実感できました。
- ・コロナ禍でも体験活動ができることが分かった。周りが山でなくてもできることはいっぱいあると考えさせられた。

### ～成果と課題～

- 直前まで参加者の方と実施するか延期するかを連絡を取り合いながら検討した。宿泊が心配な人のために通いで参加もできるようにした。しかし、コロナ感染が心配、もしくは宿泊で受講した場合には数日間、自宅で様子を見る必要がある市町村もあり、直前のキャンセルが5名いた。
- コロナ感染防止の観点から三密を避ける対応をした。座席は間隔をとり、換気、使用したもの等のアルコール消毒を確実にした。また、野外炊飯では食事を食べるためにマスクをとるときには、アクリル板で仕切り備えた。今年度は昨年度と同様に夜の情報交換会は行わなかった。受講者全員が体調を崩すことなく全日程を終了することができた。
- 講師の先生方の講義内容がよかったことと、講義と実習をバランスよく配置したことにより、2日間で18時間の受講というハードな日程であっても、参加者の方々から非常に高い満足度を得た。
- 参加者からは土日の開催ではなく夏休み期間中等にしてほしいという要望があった。